

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間

会報 No.50

二〇〇九年九月六日発行

川崎市幸区古市場 2-109
京浜協同劇団内
TEL 044-511-4951
郵便振替 00250-3-18369

第三四回 かわさき演劇まつり

「モモ」の公演は一七三二名の観客動員で成功！

京浜協同劇団 稲垣 美恵子

時間泥棒と盗まれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子の不思議な物語「モモ」は、世界的な不況で人間らしい生活が奪われている今だからこそ意義があるのではないか、また多くの人々に共感を得られる名作であり、親と子で楽しむ演劇まつりにふさわしい作品ということで、この一月に「モモ」の上演を決定、出演者・スタッフ四八名、上演時間二時間の大作に挑戦したのです。

四月の稽古開始から四か月を経た七月二十五日(土) 昼・夜、二十六日(日) 昼の計三回の公演で予想(一五〇〇名)を上回る観客に観てもらうことができました。

開演初日、客席は小さなお子さんからお歳を召した方々までいらっしやるはずなのに、とても静かなので「面白くないのかな」と心配でした。でもカーテンコールでは温かい大きな拍手と手拍子が私たちを迎えてくれたのです。「お客様は楽しんで観てい

てくれたのだ」とホッと胸をなでおろしました。そしてロビーでのお客様の笑顔に触れることができてとても励まされました。本当にお客様は宝です。

アンケートも好評で嬉しい反応がほとんどでした。やはり「モモ」は私たちの味方だったのです。

川崎市が全国に誇る文化事業として長い歴史をもつ演劇まつりも年々予算が削られて、有料化されて久しくなります。それでも少ない予算で頑張るのが創り手の私たちです。まず最低の予算を見積もり、採算のとれる観客の目標を算出、その上で一人でも多くのお客様に観てもらうことを念頭にポスター、チラシを作り宣伝する。川崎演劇協会と劇団の制作部からなる上演実行委員会と文化財団との協同作業で川崎市全域に広めるための作業が進められる。今回は財団の担当者の協力が得られたことや、今回初めて「モモ」上演のための推薦人を依頼し協力を得られたことはとてもハッピーでした。それにいつも

は学校のチラシを見ての観劇申込みが少なく効果が期待できなかったのですが、今回は違いました。市民の申込み七九五名の約八割の方が学校配布のチラシによるものでした。それは今年度の課題図書と合致したためのラッキーな現象だったのです。これからは演目を決める際に学校の動向も参考にすると良いかもしれませんね。

一方、稽古場では各自目標を掲げて客集めに奮闘二度の登戸駅周辺での宣伝行動など暑い中を皆で頑張りました。

また、「京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間」の方々には公演のたびに会場整理や受付のお仕事を担当していただいておりますが、できるだけご迷惑をおかけしないように改善していきたいと思っております。これからもよろしく願っています。



「モモ」の舞台①

(写真：長坂クニヒロ・以下同)

立ち止まり 空を見上げてみて

鶴田 まや

ドイツの作家エーリヒ・ケストナーは自作の中でこう書いている。

「とうとう私はある子供の本を読み出した。でも私はそれをすぐに放り出した。すっかり腹がたつたのだ。なぜか。この著者は自分の本を読む子供達を騙して、子供はいつも陽気で、どうしていいかわからないくらい幸せなのだ、ほんとに信じさせようとしていたからだ。このいかさま作家によれば、子供時代というものは極上の粉で焼いたお菓子という事になってしまふ。大人というものは、どうしてこゝもケロリと自分の子供の頃を忘れて、子供だつたときには随分悲しく、不幸な事だつたのであるのだという事をまるでわからなくなつてしまふのだからこの機会に心からお願ひしたい。子供時代を決して忘れないでもらいたい。どうか約束して欲しい」人生で大切なのは、何を悲しむかではなく、どれほど深く悲しむかだけなのだ―以下略―

少くし長くなつてしまいました。この夏「かわさき演劇まつり」で『モモ』に出演させて頂きました劇団仲間の鶴田まやです☆

話を元へ戻してみますが：『モモ』の作者であるミヒアエル・エンデのメッセージにも通じるころがあるのではないのでしょうか。

私達が忘れてはいけないもの、なくしてしまったものを持つて登場するモモという存在。

村や街の人々、そして読者はモモに会うことで「何故それを忘れていたのだろうか？」と気付くのです。

エンデの描く、便利で時間の節約に長けた世界は：現在の世の中に随分と似通っています。いや、もうエンデの想像を超えているかもしれません。

そのすべてを悪いことだとは言えない。けれども、私はやっぱりのんびりと生きてゆきたいのです。でないと私達はモモの持つ大切な部分を忘れてしまふから。



「モモ」の舞台②



「モモ」の舞台③

自然を自然のままに受け入れ、その中で豊かに生きてゆけるモモ。

相手の目を見て、じつくりと話を聞くモモ。忘れてはいけない、なくしてはいけない。

『モモ』に出演された方、舞台を観て下さった方、そして『モモ』を読んだ事のある方ならば、きっとこの気持ちをおわかって下さるでしょう。

今晚、早歩きしていた歩みを止めて立ち止まり…空を見上げてみて下さい。そして、小さな感動を。

「今日もお星様が綺麗だよ、ねえカシオペア！」

(劇団仲間)

劇は役者だけで

つくっているんじゃない

麻生 侑香

はじめまして。第三四回演劇まつり「モモ」チェリー役の麻生侑香です。今回の作品で、私達の多忙な生活の中で豊かに過ごすためには？という謎に対するヒントを皆さんに伝えられたと思います。「モモ」の他の役者さん達も各自の仕事に追われながらも稽古を続けました。なかなか全員がそろわずに



「モモ」の舞台④



「モモ」の舞台⑤

いましたが、「モモ」を演じて役者さんたち自身何かを感じるものがあつたと思います。私自身演劇は初めての経験でした。川崎市立図書館でチラシを見て応募しました。いろんな不安と楽しみがありました。まず、読み稽古から始まって立ち稽古をしていき、小道具などを作り本番に向かいました。そんな中で、劇について何も知らない私にいろんなことを演劇の人達は教えてくれました。例えば、声を出しやすくする方法や劇は役者だけでつくってるんじゃないということ。他にもたくさんあります。「モモ」を見てくださってありがとうございます。そして、これからも演劇まつりを応援して下さい。

すべての方に感謝

橋田 芽衣子

「村人会議開催のお知らせ（円形劇場跡にて）」議題「なぜ時間が無いのか」「テンポ良い芝居とは何だ」

残念なことにこの会議は未開催だ。稽古中灰色に侵されていた私は、頭も体も固く、心晴れやかにマリアを演じられないジレンマに苦しんでいた。しかし終幕した今、すべての葛藤は心地良い疲労となつて体を包んでいる。観客の反応を見たとき、内からぐわわつと熱い波のような感動が押し寄せてきた。「モモ」公演に関わつたすべての方に感謝の言葉を伝えたい。芝居で悩むなんてとても贅沢な経験だ。この機会を与えてくれた劇団の皆様、そして送り出してくれた夫にも最大の愛を贈りたい。演劇への探究心はますます深まっていきそうだ。



「モモ」の舞台⑥

根倉さんを偲んで

劇団員の根倉藤子さんが七月二日に急逝されました。劇団員の鬼丸ゆりさんに追悼文をお寄せいただきました。

に向い始めました。

帰宅時、職場の人に「気を付けてね」と声をかけられ、車に乗る。エンジンを掛けて走りだそうとした時、ラジオから演歌が流れてきた。それを聴いた途端、根倉さんのことが思い出されて涙が溢れてきた。

一人泣きながら車を走らせた。

私は葬儀の手伝いは何もできない。でも喪主（野口真生）からの依頼もあり、弔辞を読むことになった。弔辞というものを書いたことも読んだこともない。本番（告別式）前日になって、やっとパソコン

「根倉さん聞こえますか？ 貴女の突然の訃報に皆が驚き、悲しみました。とても辛い別れです。でも今、根倉さんは大好きだった清ちゃんの外に旅立つのですね。あの根倉さんの「屈託の無い笑い声」と「優しい笑顔」にもう一度会いたい。明るく元気で楽しかった「根倉節」をもう一度聞かせてほしい。」

書き始めると、遠い昔のことや最近の出来事が次々と蘇えってくる。泣きながら書き直し読み直し、とうとう明け方になってしまった。

やっと書いたが、読む力が残っているだろうか？ と不安だったが、精一杯語りかけた。最後に流されたテープ、根倉さんの自作歌「蛭々」を聴きながら最後のお別れをしました。この時突然、孫の智礼君が「蛭々」を歌い始めました。この歌が大好きだったのでです。

私たちを見守りながら、根倉さんは清ちゃんと一緒に天国に旅立ちました。改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

b y 鬼丸ゆり



1959 — **この日、この地で、この人々と** — 2009

創立50周年／一連事業

- 稽古場改修事業 (各団体や地域の人々が活用しやすく)
- CD 製作・発売 2枚組 ¥2,500 好評発売中
(収録曲「金冠のイエス」「麦の穂のように」「さつきまつりのうた」ほか)
- レセプション開催 10月3日(土) エポック中原 7階大会議室
- 記念誌の発行 B5判 約150頁 ¥500
- 記念公演 「貧の意地」太宰治 作／蒔村由美子 脚本 (11月・12月スペース京浜にて)

五十周年記念公演

最後を飾るのは

「貧の意地」

京浜協同劇団 藤井 康雄

何という国なのだと思う。何という世の中になっ
てしまったのだと思う。

「誰でもいいから人をころしたくなった」という
時代になり、市場原理にすべてを任せるといふ権力
側の横暴な手法は当然のことながら、「人間が人間
らしくある」べき根底を根こそぎ破壊し尽くさんば
かりの勢いなのである。

若者から生存の基本となるべき雇用の形態を極限
まで不安定で無権利なところまで追い込み、中高年
の働き盛りの世代にはコスト削減の名目のもと、情
け容赦のない過重労働とリストラの嵐がふきあれて
いる。高齢者にいたってはお金の入っていない財布
から強引に巻き上げていくといった泥棒まがいの政
治がまかり通っているのである。

何という国になってしまったのだと思う。

五〇年前はそうではなかった。この国の未来をみ
んなで考える共通の土俵があり、共通の運動があり、
いつせいに花を開かせんとする「意志」がそこかし
こに存在していたのである。京浜協同劇団もそのひ
とつであつた。自身は貧しくとも「人間はどうあつ
たらいいのか」「この国の未来はどうあつたらいい
のか」について熱い思いがたぎっていたのである。

そして五〇年が経つ。世の中は驚くほどに変わつ
てきているが、五一年目の門出にたつて考える。
「我々の初心は変わつていいはずがない、変えては
いけない不変の志なのだ」と。

いささか理屈めいていて恐縮だが「貧の意地」は
徹底して皆様に楽しんでいただきたいと思つてお贈
りする「年忘れお楽しみ興行」である。作者太宰治
生誕一〇〇年であり、今春病に倒れた脚色者蒔村由
美子、両者への追悼公演ともなるであろう。五一年
目を迎える京浜の「貧の意地」をぜひ見届けてほし
い。

* * *



京浜協同劇団 創立 50 周年記念公演 No. 3 (第 79 回公演)

ひん い じ 貧の意地

「貧しくとも 心までは売りとくねえ」
貧乏長屋の浪人たちが織りなす
心洗われる物語

太宰治 原作 蒔村由美子 脚色
藤井康雄 演出

2009 年 11 月 27 日 (金) 昼 2 時 / 夜 7 時
28 日 (土) 昼 2 時 / 夜 7 時
29 日 (日) 昼 2 時
12 月 12 日 (土) 昼 2 時 / 夜 7 時
13 日 (日) 昼 2 時

太宰治 生誕 100 周年
蒔村 由美子 追悼

会場 スペース京浜 (京浜協同劇団稽古場)

〒 212-0052 川崎市幸区古市場 2-109 ホームページ : <http://www.kinet.or.jp/keihin>
お問合せ 電話 044-511-4951 FAX 044-533-6694 E-mail: keihinkyoudougekidan@nifty.com

◎文化の仲間通信◎

◆川崎市民劇場 第292回例会

木山事務所公演 出番を待ちながら

作 ノエル・カワード／演出 末木利文／出演 三

田和代・新井純・北村昌子ほか

日程 10月2日～8日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

現役を引退した女優たちが同居する慈善ホーム

「ザ・ウイングス」。この慈善ホームに入居資格のある

女優は、かつて舞台や映画で活躍した人ばかり。

いまもお現役のころの「地位」や「愛憎」を引き

ずっているのが、全員がウマが合うということには

ならない。

問合せ 川崎事務所

溝の口事務所

◆弾談の会びあくの 第4回例会

MIN・YOOの夕べ 演奏してきて20年

日程 10月17日(土) 午後五時三〇分開演

会場 杉並公会堂 BF2グランサロン

ピアノ 鈴木たか子 ゲスト 安達元彦

会費 二〇〇〇円(会員一〇〇〇円)

演目 MIN・YOO I、II、IIIより TOSA/F

UNAKATA/ITSUKI/AIYA ほか

演奏はもちろんのこと、作曲者の安達さんを囲ん

だ交流会も。軽食も出ます。

問合せ 鈴木 TEL FAX〇三・三三三・三三三・〇六九七

◆川崎太鼓仲間響 15周年記念コンサート

く祭り 心ひびかせて

夜の部 午後五時

会場 エポック中原大ホール

入場料 指定席 二〇〇〇円 自由席 一般

一五〇〇円 小く大学生・障害者一〇〇〇円

ゲスト 無限(昼の部) The J.B.F.(夜の部)

演目 山呼・鬼剣舞・銚子早打ち太鼓・天平太鼓・

響(さとね)・エイサー ほか

問合せ 電話 〇八〇・一〇三八・九〇八九(吉田)

<http://hibiki-kawasaki.jp/>

◆川崎市民劇場 第293回例会

劇団前進座公演 山椒大夫く説経節より

作 ふじたあさや／演出 香川良成／出演 小林祥

子・杉本雅代・高橋佑一郎ほか

日程 12月1日～8日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

森鴎外でおなじみ「あんじゅとづし王」の物語と

は一味違い、中世に語られた言語・説経節より劇化

漂白の説経師たちが日本古来の楽器の生演奏にのせ

て、物語を語ります。

◆合唱団いちばん星 第17回コンサート

日程 12月23日(水・休日) 午後二時開演

会場 川崎市多摩市民館大ホール

指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文字

演目 I部 ていんさぐぬ花・みかんの花咲く丘

ほか／II部 組曲「いのちをつなぐ人たちのうた」

／III部 箱根八里・椰子の実・待ちぼうけ ほか

／IV部 よみがえれ(沖繩の雲へより)・島唄 ほか

問合せ 岡 TEL FAX〇四五・五四一・五〇三三

●花火納涼会を開催しました

毎年恒例の8月15日に行われている大田区の花火

大会を、劇団の屋上から眺めて交流をはかる「花火

納涼会」を今年も劇団と共催で開催しました。

参加者は、劇団員、文化の仲間会員、演劇まつり

参加者など、約30名でした。

例年より花火が高く上がっていて観やすく、参加

者から好評でした。また、西海亭・須田さんの料理

特に焼き鳥が絶品で、食べて飲んで、楽しい交流が

できました。(レポート：山木)

■文化の仲間ギャラリー■

竹間テル子 ⑥

